

水産復興へ発進を

鷺尾圭司（水産大学校）

1. 未曾有の大災害

- * 広域、大規模、壊滅的地域の存在
- * 加えて、原発事故による状況の悪化
- 漁業・漁村という職業と暮らしの危機

2. それでも住み続ける意味

「漁師は、その海と自分がつながっていて、その海から切り離されたら、仕事ができない、生きていけない、別の人になってしまう」
＝ 漁業はその海と一体となったもの

- ； 世界三大漁場が目の前にあるお陰で、厳しい自然環境の中でも人々が住んでいた。そして暮らしが定着し、風景や文化や地域のシステムが成立していった。

3. そこに連なった海

- * ホタテ、カキ、ワカメなどの種苗は全国に
- * サンマ、サケ、メロウなども全国に
- * 生産拠点だけでなく、加工拠点でもある
- * 漁業技術や加工技術も人と共に全国につながる

4. 緊急復旧から恒久復興への哲学

- * これまでの漁業の再評価 … 元に戻すことが課題か？
- * 国民への水産物の持続的供給（食糧供給拠点）
- * 環境資源維持から生産、そして物流の再検討（コスト負担のバランス）＝富の配分
- * あらたな漁業社会の構築

5. まず、なにかから

- * 緊急疎開 … 体力回復のために、就業受け入れ、漁業技術交流など
- * 復旧都市計画への参画
； がれき対策・ごみ対策、海岸・海底掃除、環境・施設再整備
- * 自然に畏れの念を持ち、ハードのみならずソフトも組み合わせた対応

* 再興するには、時間と支援だけでなく、モチベーションの維持が重要 = 夢を描く！

* 水産復興への国民的理解

6. 水産を再検討する

* 「放射能の流れた海で獲れた魚は怖い」という現実と風評

* 海の生態系の理解（食物連鎖と生物濃縮）

* どのような水産物を生産・供給し、なにを避けるのか … 放射能との付き合い方

* 国民への水産食料の供給確保

* 「水揚げすれば終わり」の漁業からの脱却 … 六次産業化・普及員の改造

* 「地産地消」に矮小化せず、「旬産旬味」を大切に

* 責任ある漁業の役割：資源管理、環境対応、労働安全性、安全と安心、食文化を豊かに

7. 生物多様性とともに必要な「生活多様性」

* 生物多様性の必要性は昨年秋に多く語られた

* モノカルチャーのもろさは、鳥インフルエンザや口蹄疫などに現れている

* コンビニエンスな暮らしは、在庫を持たない … 危機管理に弱い

* 電化以前の暮らしの知恵や籠城の知恵 = 自立したインフラと乾物文化

* 生活多様性の面倒臭さと喜び

8. だれが担うのか

* あらたな漁業社会の構成員（次世代重視）

* それを指導できる普及員、行政機関

* 地域に密着した漁協・系統組織

* 関連産業

* 地域住民

※ 力強い地域水産産業の復活を！ 水産教育で夢を描く！